キズナエピソード

環はなび　３話

//ヴィジュアルノベル形式開始

//とびお自室

「もしもし、とびお？　はなびだ。

　このままだと埒が明かない。来て」

ある日、はなびから突然連絡が来た。

「埒が明かない？　どういうことだよ」

「来ればわかる。

　渋谷のあのカラオケボックスで待ってる」

//次ページ

ろくな説明もされずに、通話は切られてしまった。

だが、呼びつける程のことだ。

俺は指定されたカラオケボックスへと足を運ぶ。

そこでは何人もの学生が集まっていた。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//カラオケボックス

［とびお］

「はなび、これはなんなんだ？」

［はなび］

「あぁ、来てくれたね。

これは、私が運営している賭けサークル――。

その中でもハイローラー達の集会だよ」

［とびお］

「ハイローラー？」

［はなび］

「大口の客……まぁ、VIPだね。

ちまちまセコイ額をやり取りすることに飽きた連中。

一見普通の学生だけど、ギャンブルジャンキーばかりさ」

［とびお］

「……なんで、そんなとこに俺を呼ぶ？」

［はなび］

「察しが悪いなぁ。

ここに集まってるのはハイローラー。

彼らのギャンブルには、掛け金に制限はない」

［はなび］

「ちまちま賭けても埒が明かない。

ここでオール・インするんだ。

どう？　ひりつくっしょ？」

［はなび］

「それで外せば、バンクロールは一気に0になる

勿論勝てば……ふふ、いい顔するようになったじゃん」

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

まるで俺の返事がわかっているような、意地の悪い笑顔。

思い通りに動くのは癪だが、俺は頷いていた。

実際、膨らんでしまった元金を減らすには、

この方法が手っ取り早いように思えた。

//次ページ

はなびがみんなに賭けの説明を始め、賭け金を尋ねていく。

各々の口から飛び出す金額は、

サラリーマンの月収をはるかに超えていた。

どこからそんなお金が出てくるんだ？

なんで気軽にそんなに賭けられる？

//次ページ

ダメだ。

こんな場所にいたら、俺はダメになる。

さっさと負けて、ここから出ていかないと！

//次ページ

……それなのに、俺はまた勝ってしまった。

呆けている間に締めの話は進み、場が解散していく。

ふと気付くと、はなびはおもしろそうに俺を見つめていた。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

［はなび］

「どうした？　今日はもう賭けはおしまいだよ。

アンタも帰りなよ」

［とびお］

「……お前、俺が勝つってわかってたのか」

［はなび］

「バカ言うな。わかるわけ無いだろ。

でも、アンタが勝てばおもしろい。そうは思ってた。

……そして、やっぱりアンタはおもしろいよ」

［とびお］

「もういやだ。俺は賭けを止める。

俺の金は好きに使ってくれ」

［はなび］

「ここまで何人の人を負けさせたと思っている？

サレンダーが許されるわけがないだろう？」

［とびお］

「そんな言葉はもうたくさんだ！

金はやるから、もう二度と連絡しないでくれ」

［はなび］

「……私が言ってることを履き違えているね。

許されないってのは、こういう意味だよ」

［とびお］

はなびが取り出したのは、

スマホで録画された映像だった。

――賭けに興じる俺の姿が撮られていた。

［はなび］

アンタが100万単位で賭けに関わってるって証拠。

知ってるかい？

これは賭博罪っていう、立派な犯罪だよ」

［はなび］

「逃げるなよ。アンタももう、こっち側の人間なんだ。

見てみなよ、ここに映っているアンタの顔。

食い入るようにテーブルの上を見つめてる。」

［はなび］

「普通の人間は、100万単位の賭けでこんな顔はしない。

アンタはもうギャンブルの虜になっちまったのさ」

［とびお］

「ち、違う……。

俺はお前らとは違う……！」

［はなび］

「図星、なのに認めないんだね。

……わかった。それじゃあ、勝負しない？」

［とびお］

はなびが1枚のコインを取り出した。

［はなび］

「コイントスだよ。」

「アンタが勝ったら、私はアンタに二度と連絡しない。

その代わりもし私が勝ったら、

アンタは金が続く限り私のいいなりになれ。」

［はなび］

「今度は金じゃない。

もっと大切なものを失うかもしれない勝負。

それでもやるかい？」

［とびお］

「やるさ」

［はなび］

「即答か。ひりつくねぇ。

やっぱりアンタは――」

［とびお］

「勘違いするな。

俺にとって、平和な日常が大切なんだ。

それを取り戻すためなら、これくらいやるさ」

［はなび］

「ふふっ。まぁ、そういうことにしておこうか。

それじゃあ行くよ。……表？　裏？」

［とびお］

「表だ」

［はなび］

「オッケー。ノーモアベットだ」

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

そして、コインは小気味良い音を鳴らして舞い上がった。

頂点に達し、落下し、はなびの手によって押さえられる。

//次ページ

結果は――裏。

俺の負けだった。

//Ｒ18版はここでRシーン挿入

//ヴィジュアルノベル形式終了

//3話END